

【未来に向けて大切にしたいこと】

余田 陽菜

「まずそうだから食べないでおこう」「これ、食べたことないけどなんか美味しくなさそうだから残そう」これは、私が最近よく耳にする会話です。

このような会話を、一度は会社や学校、家庭で聞いたことがある人もいるでしょう。

私は、こんな会話を聞くと、いつも怪訝（けげん）に思います。なぜならば、美味しくないので残して捨てることは単純にもったいないからです。嫌いな物があるのは仕方がないと思うかもしれませんが、しかし、今の日本は「飽食の時代」と言われていて、食べ物に恵まれ、裕福な生活をしています。そのような「飽食の時代」が問題視されている今、私たちの食べ物との向き合い方について二つ考えました。

一つ目は、食べ物への偏見と食わず嫌いが飽食につながっているということについてです。先入観や周りからの影響で食べ物を残したり、捨てたりしていませんか。最近では小中学生の給食の食べ残しは年間約5万トンを超えています。私たち一人ひとりの自分勝手な好き嫌いや食わず嫌いでたくさんの食べ物が捨てられていることが飽食の時代の大きな原因でしょう。また、学生だけでなく、世界全体で見ても、日本は一人あたりの食品廃棄率がアジアでもトップです。世界という大きな単位で問題視されていることに目をそむけるわけにはいきません。だから、私たちは食わず嫌いをなくしていくなど、一人ひとりの「小さな単位」から向き合っていくのが、飽食をなくすことや、未来の食べ物との向き合い方の一つだと考えました。

二つ目は、世界の飢餓問題と飽食の中に生きる私たちについてです。飽食の時代と言われる日本とは異なり、飢餓は発展途上国などで深刻な問題となっています。飢餓により、栄養不足となって亡くなるケースもたくさんあります。最近では、世界の飢餓人口は9人に1人と飢餓に苦しむ人が、人口増加とともに増えていく一方です。「食べたくても食べられない人がいる」何気なく耳にする言葉でしょう。この言葉は、今の日本の私たちが世界を広く見て理解しなければならないことだと思えます。

しかし、その一言を聞くだけで「ハッ」となることは少ないかもしれません。それならば、「食べたくても食べられない人がいる」ことの「食べ物の有難み」ではなく、「食べ物が食べられなくて困っている人がいる」ことの「食べ物の大きさ」を理解しましょう。それを理解することが未来に向けての食べ物への考え方であり、飽食をなくしていく第一歩の考え方でもあるのではないのでしょうか。

この二つの問題や、食べ物との向き合い方から私たちの未来に向けて、食べ物の貴重さを理解し、大切にしていけるべきだと改めて思うのです。日本の飽食問題、世界の飢餓問題など、私たちの生活で遠いようで近い問題を。食べ物に恵まれている今の私たちだからこそ、好き嫌いや残食などをなくしていく役割があると思うのです。本来の食べ物の在り方を考えながら。

急募！



大東市教育委員会からのお知らせ

看護師（准看護師）資格のある

介助員募集！！

大東市教育委員会では、看護師又は准看護師資格のある介助員を募集しています！
市内公立小・中学校に在籍する医療的ケアを必要とする児童生徒に対して、必要な医療的ケアをはじめとする学校生活における介助を業務内容とします。勤務先は市内小・中学校です。

学校勤務ですので、児童生徒と同じく夏休み・冬休み等の長期休業もあります。

週2，3日から週5日まで、勤務日・時間等については相談させていただきます。
ご興味のある方、下記までご連絡ください！！ 給与面やサービス形態を含めて、お伝えさせていただきます。

【問い合わせ先：大東市教育委員会 教育政策室 072-870-9643】